

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年7月6日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3770102550
法人名	有限会社らく楽
事業所名	らく楽一宮
所在地	香川県高松市一宮町1568番地1 (電話)087-815-6001

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成21年6月3日	評価決定日	平成21年7月6日

## 【情報提供票より】(21年4月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 8月 11日
ユニット数	3ユニット 利用定員数計 27人
職員数	27人 常勤 13人, 非常勤 14人, 常勤換算 6.3人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000円	その他の経費(月額)	16,500円+実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250円	昼食	400円
	夕食	450円	おやつ	100円
	または1日当たり		1,200円	

### (4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	26名	男性	6名	女性	20名
要介護1	6名	要介護2	12名		
要介護3	7名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 80.8歳	最低	60歳	最高	91歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	はまもと医院・高松平和病院・おさか脳神経外科病院・生協へいわ歯科診療所
---------	-------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、感謝と慈愛の心を込め自然の息吹きを暮らしに感じる心やすまる環境作りに取り組んでいる。施設内の各所に無垢の素材を使用し、自然のぬくもりが肌で感じられ、気兼ねなくゆったりと過ごせる雰囲気である。また敷地内には菜園もあり、談話室・居室・洗面所・浴室・トイレ等も利用者や家族の意向を踏まえ、利用者の自由と尊厳が考慮されている。さらには離床・着替え・排泄・整容等の日常生活面では職員が一丸となり日々取り組んでいる。家族への連絡は毎月手紙で写真付きの状況報告がなされ、また「らく楽便り」も内容が充実しており、広報面でも活躍が期待できる。外出や散歩の時に地域の方と挨拶や会話が交わされ、地域の方から野菜などの差し入れもあり、地域に密着した体制が整っている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域との交流について、地域の方々との会話や挨拶、地域の幼稚園・小学校の行事や老人会への参加、自治会への協力など相互に交流できる関係づくりへの努力がうかがえる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ユニットごとに職員全員で自己評価に取り組むことで、全職員が評価の重要性を認識し、意識の高揚に役立った様子が見られる。今後の質の向上と個々の意欲の変化に期待したい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	隔月に開催入居者代表・家族・地域代表・農協婦人部・民生委員・市介護保険課・地域包括支援センター・事業所代表・事業所担当者・スタッフが参加している。討議内容は活動状況報告・行事内容・行事計画・職員現状・防災防火計画・農協婦人部からのお知らせ等、活発な意見交換、取り組みがうかがえる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	家族には毎月写真付きでホームの活動状況や利用者の暮らしぶり、行事参加の状況などを報告している。面会時には声かけをして意見を聞き、内容を検討、苦情は職員で話し合って対応するとともに、今後の運営に反映するため記録に残し、家族の意見・苦情・不安への対策と質の向上のために重要視している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事は交流の場として、幼稚園、小学校の行事や老人会の招待等に積極的に参加し交流している。散歩などで地元の人に会った時には、会話や声かけで親睦を深めている。地域の方からの農産物の差し入れがあるなど、事業所への理解を得ながら地域との関わりを深めている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念”自然と笑顔・感謝と慈愛”を作りあげており、地域との関わりについての理念も追加している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送りで全員が理念を唱和、実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の老人会・幼稚園・小学校の行事に参加し、地元の方々とも交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員が一丸となって自己評価に取り組み、外部評価を受けることにより、職員の意識の向上について真剣に考え、サービスの質の向上に活かしている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月(2カ月に一度)の開催には、家族代表、利用者、地域代表、農協婦人部、民生委員、市介護保険課、地域包括センター、事業所代表、職員等が参加している。活動状況報告・意見交換を行う中で、大切に意見を聞き、改善に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	情報公開しており、行政に事業所の考えや運営面・現場の実情などを積極的に報告している。外部評価の報告も重視し、直面している課題解決に向け協議するなど質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月一回写真入りで行事内容や活動状況を手紙で報告し、喜ばれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面接時には極力意見を聞き、苦情については職員全員で検討し、記録を取るなど今後の運営に反映させるよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者との関係を重視して、馴染みの関係を壊さないように職員の異動には配慮がなされている。利用者が他のユニットに自由に行けるようにしており、他ユニットの職員も顔見知りになっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外の研修会にも参加し、その内容は部内の勉強会で伝達講習会を開き、質の向上に努力がなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との施設交流を行い、相互訪問で交流・連携を図り具体的な取り組みや施設見学も随時行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者一人ひとりの状態を把握し、職員やホームの雰囲気徐々に馴染めるよう家族などと相談し合い支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日のプログラムに沿った流れだけではなく利用者個々の生活習慣を取り入れながら、利用者から学んだり支えあう関係を築く努力をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や利用者の個々の意見を重視しており、相談しながら本人の視点に立ち、話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の意見を尊重して職員、介護サポーターの意見やアイデアの交換の機会を設けて作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に変化が生じた場合でも、本人、家族、職員の意見交換を行い、それに対応するための新しい計画作成に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の要望を常に聞き、職員間で話し合い、最適な支援ができるよう努めている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望に沿ってかかりつけ医を確保している。事業所の主治医やかかりつけ医と連携を取りながら医療を受診できる支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に医療体制を説明し、同時に終末期医療についても話し合っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライドやプライバシーを損ねないように職員は常に心がけ、対応や言葉かけにも配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の希望や体調に合わせて、ホームでの役割が自発的に見出せるよう支援に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめるように、一人ひとりの好みや季節の物を取り入れている。食事の準備や、後片付けを利用者と職員と一緒に楽しく行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に応じて、できる限り家庭の生活と同じように入浴が楽しめるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を把握し、一人ひとりの楽しみや役割を見つけて支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員が見守りながらの散歩をおこなっている。	○	天候や利用者の体調に合わせて今後も散歩など外出の機会を作り、地域の方々と交流を広げる努力を期待したい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員、管理者が一丸となって、居室や日中玄関に施錠しないケアの努力がうかがえる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回の避難訓練を行っている。	○	今後も地域の人々の協力を得られるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事と水分摂取量を記録して職員が共通理解できる工夫がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や果実木があり、毎日の生活で季節感や生活感を上手に取り入れ、居心地のよい空間が工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者、家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを持ち込んでもらい、居心地良い生活ができるよう工夫がなされている。		